

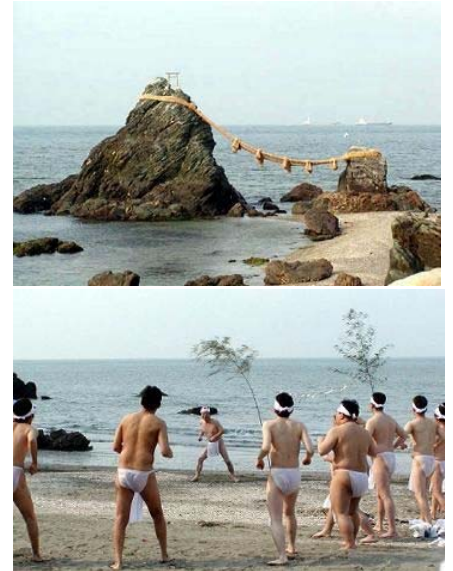


## 『禊ぎ (みそぎ) (伊勢神宮)』

伊勢神宮のお木曳き行事の前日、二見浦の夫婦岩を望む興玉（おきたま）神社で禊ぎ（みそぎ）を受けました。先週・先々週と行われたお木曳き行事は大雨のため、参加者も観客もずぶ濡れだったようですが、今回は雨もなく絶好の天候でした。

バスから興玉神社まで人・人・人の行列です。腕に腕章を巻いた、神宮への奉仕の方に先導されながら、ぞろぞろ、ぞろぞろと歩きます。海岸を見下ろす護岸の通路に出ると、結界の竹の前で20名近い半裸の男女が禊ぎをしていました。水に濡れた体で、海に向かってエッホ・エッホと舟を漕ぐ掛け声と仕草や神を呼ぶオーオーの声、神に祈る所作など、踊りのようにも見えました。元気いっぱいの動作なのかもしれませんが、日の陰った強風の吹く浜のみそぎは少し寒そうでした。

神社では『無垢（むく）の塩』で身を清められました。おみやげに貰った袋には『無垢塩草（むくしおくさ）』のわけとして、以下のように書かれていました。



二見浦禊齋  
無垢塩草



二見の浦に太古、倭姫命（やまとひめのみこと）が、天照大神を奉戴して御船をとめさせ給いし興玉（おきたま）神社の霊蹟から採取します。

当浦はミソギの霊場で、身を清めケガレを祓って神宮に参拝するのが古くからの吉例となっています。

当神社では伝統によりミソギに代る無垢塩の被を行ないませんが、直接祓を受けられない方のためにこの霊草をおわけします。

- 一、無垢塩草は浴場に入れ、または身につけて、不浄祓いとします。
- 一、この霊草をシメ縄に付け門口の不浄を祓い、また田畑の畦に立て害虫の災いを防ぐのに用います。

同行の松田宮司（姫路神社）に、この塩は今も古来の製法により作っている。又、お供えの品々も自給自足していると教えて頂きました。

ちなみに鉄については、第27回の外宮遷宮の年（1192年＝建久3年）、久永御厨（くえいのみくりや）から2000テイ（金偏に廷と書きます）が納入されたと記されています。（『長講堂領所領目録』ほか）このころ（南北朝時代）、官営の製鉄所が力を弱め、替わって荘園領主が大勢の農民と製鉄職人たちを使い大規模な製鉄が始まったと思われます。しかし、当時の1テイがどれほどの重量であったか、又、どんな形状で納入されたかは判っていません。

御厨（みくりや）：伊勢神宮の荘園  
久永御厨（くえいのみくりや）：岡山県久米郡と推定されている。

### 参考図書

日本古代の鉄生産 編 たたら研究会 六興出版 1991年  
文献史学から見た古代の鉄 福田 豊彦 (P 38 より)

テイ 鉄  
テッテイ 鉄錠

むらの鍛冶屋®

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/bike/ryou@memenet.or.jp>

